

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 22 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.8 m ³ /h	24.2	107.6 kPaabs	0.00 vol%
		給水系：約 4.6 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m ³ /h	36.3	114 kPaabs	0.08 vol%
		給水系：約 4.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h	50.9	101.6 kPaabs	
		給水系：約 1.8 m ³ /h			

【2号機】・2/21 19:44 温度指示値上昇に伴い流量を増加していた原子炉への注水について、増加操作前の流量（給水系：約 3.0m³/h、炉心スプレイ系：約 6.0m³/h）へ戻す操作を段階的に実施しており、前回の流量変更から、プラントパラメータの経時変化に異常が見られないため、給水系からの注水量を約 5.5m³/h から約 4.0m³/h に変更（炉心スプレイ系からの注水量は約 6.0m³/h で継続）。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	26.0
2号機	循環冷却システム	運転中	13.1
3号機	循環冷却システム	運転中	13.5
4号機	循環冷却システム	運転中	25

*システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【3号機】・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

< 3. トレンチ立坑・タービン建屋地下のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理 建屋（高温焼却炉建屋）]	2/20 9:39～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理 建屋（高温焼却炉建屋）]	2/20 9:30～ 2/22 9:52 移送実施

・2/22 9:43～15:58 2号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピットから2号機タービン建屋へ移送実施。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/22 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・ H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5 . その他 >

- ・ H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・ H24/2/20 15:43 頃、2号機原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタB系において、画面上にエラーメッセージが表示されていることを確認。これにより、B系の希ガス濃度について、免震重要棟集中監視室での確認が不能となった。当該装置には監視機能がA系、B系の2系統あり、エラーメッセージの出していないA系にて監視を継続。
- ・ H24/2/21 17:20 頃、A系においても同様のエラーメッセージが確認され、希ガス濃度について、免震重要棟集中監視室での確認が不能となった。現場の状況を確認した結果、現場から免震重要棟集中監視室までのデータ伝送系の異常が原因であることが判明。ただし、A系、B系共に現場のモニタにより監視が可能であり、現在、現場のモニタ画面をカメラにより、免震重要棟集中監視室で遠隔監視できていることから、未臨界の確認についても問題はない。現在、復旧に向けて、不具合の原因調査を継続中。なお、2号機原子炉格納容器ガス管理システム自体は正常に運転中。
- ・ H24/2/22 10:05 6号機補機冷却海水系ポンプ(C)の復旧作業が完了したため、試運転を開始。
10:07 試運転に伴い、6号機補機冷却海水系ポンプ(A)を停止。

以上